

大月市民公開講座

「小山田信茂公」の遺徳を偲ぶ

郡内領主小山田信茂公の事績に触れ、
武田家逆臣説を問う



11月2日(土)

小山田信茂公顕彰会

相談役 松本憲和
会長 小俣公司
副会長 武田和春

目次

- | | |
|------------------------|----|
| 1. 郡内領主小山田信茂公はどんな方？ | 松本 |
| 2. 通説で言われていること(武田家逆臣説) | 松本 |
| 3. 小山田信茂公顕彰会の設立と目的 | |
| 1) 顕彰会設立前史 | 松本 |
| 2) 顕彰会設立 | 武田 |
| 4. 顕彰会の主な活動実績 | 武田 |
| 5. ドラマ「勝頼と信茂」 | 小俣 |
| 6. 郡民の誇り、そして未来への継承 | 小俣 |

1. 郡内領主小山田信茂公はどんな方？

生涯 1539年に生まれ、1582年に亡くなる。**享年42歳**

出自 小山田出羽守信有の**次男**として誕生

才覚 若い頃から**文武両道**の武将として知られ
武田信玄公の**信頼**を受けた

戦功 武田軍の**先鋒大将**として川中島の戦いなどで活躍し
投石隊を指揮

誠実 **自身の命と引き換え**に、民と神社仏閣を傷つけずに
郡内を救う行動を取る

冤罪 江戸時代に**冤罪(甲陽軍鑑)**とされ、誤った評価を受け
けるも近年その評価が**再評価**されている



2. 通説で言われていること（武田家逆臣説）

通説

- ・天正10年(1582年)武田家滅亡の際に、小山田信茂は武田勝頼を裏切り勝頼の岩殿城への退路を断った
- ・結果、勝頼は行き場を失い天目山で自害に追い込まれた
- ・信茂自身も後に織田信長によって「不忠者」として処刑された

その根拠

- ・『甲陽軍鑑』※によると、勝頼一行が郡内領に入ろうとした際、信茂は道を封鎖し、勝頼を追い返したとされる

※甲陽軍鑑とは

- ・武田信玄・勝頼の事績や戦術を記した江戸時代初期の軍学書
- ・史実としての正確性には疑問があるものの、武士道思想の形成に影響を与え戦国武将の理想像を知る上で重要な文献とされている



3. 小山田信茂公顕彰会の設立と目的

約450年前の「武田家を滅ぼした男」という汚名を晴らす

1) 顕彰会設立前史 1/6

(1) 自己紹介 相談役 松本憲和

武田家滅亡後、信玄公の妹(妻)、
勝頼公の二歳の男子を警護し、
埼玉県坂戸市上吉田村に逃亡、
土着。
同行した者9人。

〈移動経路〉

新府城 ―□― 八王子―坂戸



1) 顕彰会設立前史 2/6

(2) 私の研究A

＜八王子方面に逃れた者＞

○松姫一行(田野—大菩薩越え—八王子)【甲陽軍鑑】7人—幼い姫3人

小督付(仁科盛信の家臣)13人—母子3組、内2組は土屋一族

■大菩薩越えは20人(幼児6人を含む) 大菩薩越えは不可能では？

○土屋惣藏一族、7人

○真田信尹(隠岐守)—新府城奉行と男子、2人

○天野藤秀父子—遠州犬居城主、大月笹子峠入口に天野屋敷、2人

○市川氏、小坂氏、八木氏など7人

■逃走経路不明—27人

ただ彼らには人質に出していた妻子がいたはずで、少なくとも27人の2倍の逃走者がいた。他に本貫地に帰った名もなき者もいた。最低50人。

1) 顕彰会設立前史 3/6

(3) 私の研究B

＜鶴瀬、駒飼—大月—甲府を移動した者＞

○曾根兄弟、秋山摂津守

- 彼らは、駒飼から笹子峠を越え、大月で父と会い、古府中で殺害されている。
これにより、新府城から岩殿城に集結していた数百の軍勢の存在が明らかになった。
小山田信茂が勝頼公を裏切ることは不可能である。

●●●●▶ 松姫一行ルート(八王子・信松院公認) 30人+家来・家族

金丸定信の母子▶▶▶ 笹子峠越え大月で松姫一行に加わり八王子へ(勝頼一行→松姫一行)

土屋惣藏(弟)の妻子▶▶▶ 田野から笹子峠越え大月で松姫一行に加わり八王子經由静岡へ(勝頼一行→松姫一行)

秋山源三郎(弟)妻子▶▶▶ 田野から笹子峠越え大月で松姫一行に加わり八王子經由伊豆へ(勝頼一行→松姫一行)

小宮山内膳の妻子▶▶▶ 田野から笹子峠越え八王子經由静岡へ(勝頼一行→松姫一行)

土屋直村、貞直兄弟(惣藏の兄昌統の子ども) ▶▶▶ 笹子峠越え八王子へ

上野の曾根河内守兄弟▶▶▶ 笹子峠越え10日(勝頼一行)、秋山摂津守昌成 など



1) 顕彰会設立前史 5/6

(4) 私の研究C

天正10年(1582年) 3/3~11の9日間に起こった事

3/3勝頼軍新府城を焼いて大月岩殿山へ

*日川溪谷へ向かった勝頼隊

*武器弾薬を運ぶ本隊 700人は、鎌倉街(御坂道)へ

*勝頼公は二才の男子の急病治療のために、
本隊から離れ勝沼へ向かう

(駒飼、鶴瀬に陣屋)

*2つの陣屋 男女に分ける

駒飼陣屋には、松姫達、家臣の妻子

*彼女達、幼い子供は、田野では死んでいない

*小山田隊の発砲事件と意味

*田野で死んだのは、勝頼主従と勝頼夫人、
侍女の不可解

*日川溪谷から一步も出なかった勝頼公の意図

***最新検証「自殺と殉死」** 

・ 早川春仁氏の研究を踏まえ、
勝頼の自殺説を提示

早川宗貞「天目山にて勝頼公自殺」と書いている

- ・ 天正10年3月11日、天目山で勝頼自殺
- ・ 土屋昌恒らに殉死後の妻子逃亡を遺言
- ・ 遺言は『軍鑑』記載と一致
- ・ 勝頼は鶴瀬で待機、大月に進まず自殺選択
- ・ 家臣は自殺と認識、先に妻子を逃がす

・ 勝頼が当初から大月に行く意思が
なかった可能性

・ 小山田の行動を勝頼の指示と
捉え直す解釈

1) 顕彰会設立前史 6/6

(4) 二冊の書籍の出版と人との出会い

＜書籍＞

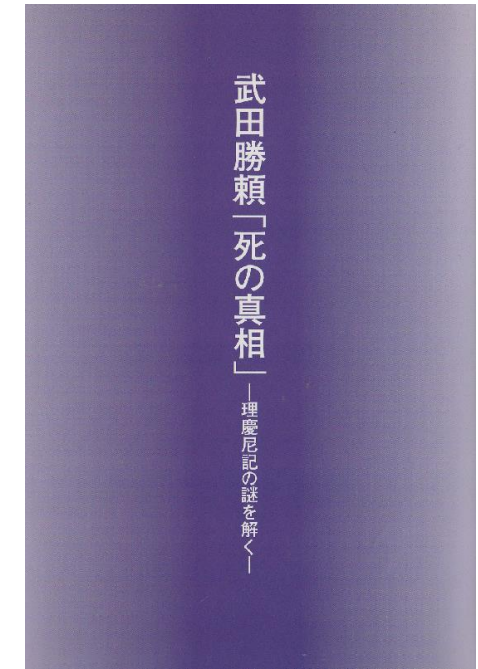
2007年 諏訪の八重姫登場
2008年 武田勝頼死の真相

＜講演会＞

2009年 元八王子歴史研究会主催「松姫の逃走経路」
2012年 武田勝頼新府にらさきの会主催(全五回)
～2013年 「歴史教室、武田落ちの真相を探る」
2015年 大月市郷土研究会主催、大月市歴史講演会
「ルーツ調査からわかってきた武田家滅亡後の真実」
2016年 ＜郡内小山田氏の会結成＞、東京都渋谷区代々木ニルの学舎図書室
2017年 郡内小山田氏の会主催、大月講演会
「武田家滅亡の真実と小山田氏の冤罪」

＜小山田信茂公顕彰会 結成＞

2018年1月 郡内小山田氏の会を大月に移し、小山田信茂公顕彰会を結成





小山田信茂公顕彰会設立の趣旨

本会の目的は、戦国時代に郡内領主であった小山田信茂公と小山田氏一族の事績を顕彰し、広くその功績を後世に伝えてゆくことにあり、ひいては「まちおこし」「まちづくり」に貢献することにあります。

小山田氏は、厳しい自然環境と田畑の少ない郡内の地を、優れた手腕によって良く統治しました。最後の領主となった信茂公は、武田軍団の先鋒大将として活躍し、文武両道を備えた武将として、信玄公からも信頼を得ていました。

しかるに、江戸時代に出された「甲陽軍鑑」で、信茂公は武田家を滅亡に追い込んだ裏切り者とされたために、小山田逆臣説が通説となってしまいました。それが誤りであったと、半世紀以上前から指摘され、近年多くの研究者の検証により通説は覆されました。

特に、小山田氏の本拠地があった都留市を中心に、早くから活発な研究や取り組みがなされ、小山田氏の事績が顕彰されました。また、小山田信茂公についての多くの著作も出版され、小山田氏は全国区として広く理解されるようになりました。

ここ大月市においても、市民有志や大月市郷土研究会、さらに県内外の研究者のご協力もいただき、小山田氏への関心が急速に高まって参りました。小山田氏が、岩殿城に拠って甲斐国に隣接する強大な戦国大名達から守ってきたこと。そして天正10年織田・徳川連合軍が甲斐国を焼き尽くす勢いで攻め入ってきた時（甲州征伐）、信茂公が自らの命と引き換えに、一人の犠牲者も出さず、すべての神社仏閣にも触れさせず、郡内を救ったこと。これらのことが理解されるようになりました。なお、最近、新史料の発見により、小山田信茂公の冤罪を晴らした論考も発表されています。

先人たちの努力を無にしないように、先駆的研究に学びつつ、小山田氏についての新たな研究にも取り組みたいと思います。今、私達ができることは、歴史に真摯に向き合い、郷土の英雄、小山田信茂公の事績を検証し、次世代が誇りをもって郷土を語ることが出来るようにすることです。同時にそれが、私たち世代の役割であり、責務でもあると考えます。

具体的には、勉強会や講演会、史跡探訪、会報発行などを通して、会員間交流や広報活動を進めて、小山田氏の歴史に親しみ、関心を高めることから取り組みたいと思います。

この趣旨にご賛同いただき、ご指導ご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

平成30年1月吉日

発起人一同

発起人代表 西室泰照「大月市郷土研究会顧問」

松本憲和「郡内小山田氏の会代表・武田家旧温会理事」

仁科義民「大月市郷土研究会会長」

奈良泰史「都留市郷土研究会会長」

織田宗寛「富春山桂林寺住職」

原 貴夫「富士山北口御師」

天野太文「大月市観光協会会長」

平井 進「平井進建築研究所」

大谷満水「郡内小山田氏の会会員」

小俣公司「郡内小山田氏の会会員」

武田和春「郡内小山田氏の会会員」

2) 顕彰会設立 2/2

小山田信茂公顕彰会の発足式 「平成30年3月27日」

3月27日 第8回郡内小山田氏の会講演会にて顕彰会発足スタート 参加者100名



特別講演会 演題:「信茂公への私の思い」 講師:松本憲和様 大月市立図書館

「郡内小山田氏の会」より名称を「小山田信茂公顕彰会」として再スタート
当日、山日新聞社の郡内情報誌「フジマリモ」の取材を受け掲載されました

4. 顕彰会の主な活動実績 13ページあり

◆平成30年(2018年)

6月17日 第9回講演会 岩田邸 参加者



会場：岩田邸 講師：夢酔藤山氏

演題：「おやまだ散歩から見つける戦国の足跡」

10月24日 設立総会と記念講演会(第1回) 会場：大月市立図書館 参加者40名



三六代 小山田隆信氏

相談役 西室泰照氏



山日新聞



◆平成30年(2018年)

2月24日 小山田信茂公関連史跡巡りの旅(バスツアー) 25名の会員に参加していただきました。



菩提寺・桂林寺ご住職・織田宗覚様と会員



3月24日
小山田信茂公慰霊祭
岩殿山・丸山公園
威徳寺・林ご住職の読経とお焼香 27名参加

読売新聞
三月五日



◆平成31年/令和元年(2019年)

4月信玄公祭りに小山田様参加

“437年ぶりに甲州軍団（武田家旧温会）に戦列復帰”



武田家家臣末裔の方々



左から
小山田隆信様
(信茂公より19代)

武田英信様
(再興武田家15代)

小俣公司
顕彰会会長



6月「信茂公学習会」
会員相互の交流会

西室相談役と松本相談役

◆平成31年/令和元年(2019年)

8月3日 大月市かがり火市民祭り



小山田家家宝
「頼当」展示
室町時代作

12月 第2回信茂公史跡巡りのバスツアー



甲府市「胴塚」にて

10月 第4回講演会 大商協ホールにて



「忠臣・小宮山内膳繁友の遺書発見」
内容から信茂公は笹子峠を封鎖していない
ことが分かった
講師 武田和春氏



◆令和2年(2020年)

8月の2日間、初狩の信茂公首塚清掃



参加者：顕彰会役員

10月 ラジオ初出演 FMさがみ:83.9MHz



タイトルは

「信玄公の小田原城攻めと三増合戦を含めた永禄12年当時の状況」との難しい内容でしたが、信茂公が小仏峠を越えて戦った廿里戦いでの大活躍など話しました。

出演：小俣会長、武田副会長

12月「武田の里をまもる会（韮崎市）と交流会」 400年前、勝頼公が叶わなかった岩殿城に登城



2月 顕彰会本出版「新編・小山田信茂論集」

顕彰会
“初出版”



3月 第3回慰霊祭 会場：岩空山威徳寺（参加者：小林市長様、顕彰会役員）

十七代小山田信茂出羽守谷村岩殿城主
青雲院殿武山長久居士位
天正十年三月二十四日 享年四十四歳



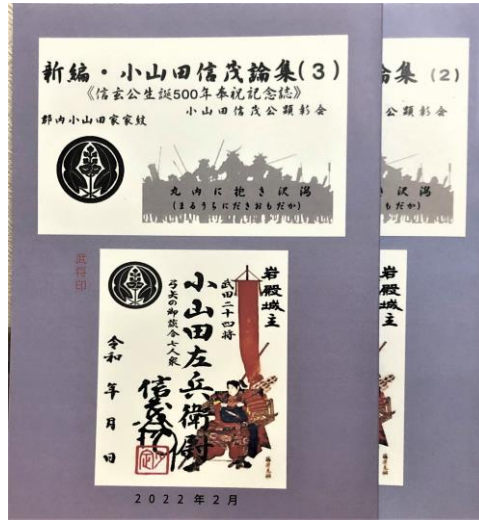
内容

- ・ 武田家滅亡に関する一考察
- ・ 忠臣・小宮山内膳の遺書
- ・ 松姫様逃走経路
- ・ 信茂は何故蔵徐源左右衛門を上暮地村に送ったのか
- ・ 信松院松姫

560円（税込み）、郵送の場合は700円。

◆平成3年(2021年)

7月、2月 顕彰会本出版「新編・小山田信茂論集(2と3)」



発刊時期

- ・論集(1)は2月
- ・論集(2)は7月
- ・論集(3)は2月(令和4年)

会員の皆様

我家のルーツ、古文書などについてご寄稿お待ちしております。

11月 全国誌「歴史研究」に小山田氏特集組まれる



歴史研究の特集『小山田一族の謎』で下記作品が掲載されました。

- ・小国領主の苦悩・・・筆者(会員のみ)小山田勢津子氏
- ・岩殿山城か岩殿城かの一考察と小山田信茂
 - ・・・・・・・・小俣公司氏
- ・笹子峠で考える・・・・・・・・武田和春氏
- ・小山田氏の支配領域について・・・・・・・・中村謙一氏
- ・小山田信茂は生きていた?・・・・・・・・夢酔藤山氏
- ・他2件会員外

11月 大月市文化祭参加 小山田甲冑隊演武



武者姿は

左から会員の
溝口氏、島崎氏、松本氏、武田氏

演武：甲冑サークル・サクトメンバー

◆令和3年(2021年)

3月5日 第4回慰霊祭 会場:岩空山威徳寺

(コロナ禍で参加者限定 林ご住職、西村ご住職(信松院)、顕彰会役員、護持会役員など)

今回は信玄公ご息女の松姫様御位牌を、故郷の甲斐の地に里帰りさせたいとの
西村ご住職の願いで参加して頂きました

四百年振りの里帰り
松姫様故郷へ



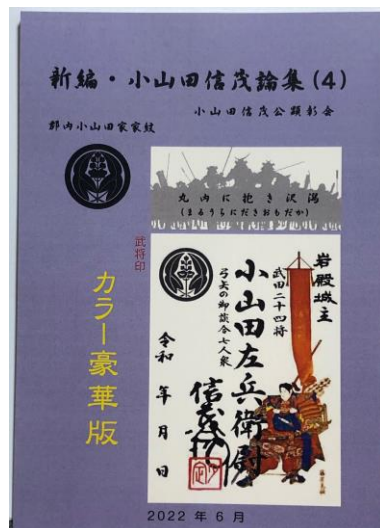
松姫様御位牌（左）と信茂公御位牌（右）



信松院の西村ご住職

◆令和4年(2022年)

6月 顕彰会本「新編・小山田信茂論集(4)」



6月に発刊しました。

会員の皆様

論集に、我家のルーツ、古文書などについて、
ご寄稿お待ちしております。

11月19日 JR大月駅近神社・史跡巡り 10時～15時 参加者:14名 説明:小俣会長



3月10～12日 四国土佐紀行「武田勝頼土佐の会」による招聘にて訪問と史跡調査



◆令和5年(2023年)

8月5日 第40回大月市かがり火市民祭り



三嶋神社でお祓い



舞台演武は甲冑サークル・
サクトと顕彰会会員出演

舞台出演の最後「大トリ」



御神火隊として
小山田甲冑隊行進に出陣

サクト隊と顕彰会
会員参加

10月28日信玄公祭り出陣



11月12日 講演会 講師:伊与久松鳳氏



演題：甲陽流真田忍者



3月9日 小山田信茂公・松姫様合同慰霊供養祭 岩空山威徳寺



岩空山威徳寺(曹洞宗) 大月市井山

- ・「短歌・花田会長」
- ・「大月市水墨画連盟・水越会長」
- ・「むすびの舞・代表和賀様」
- ・「三曲・猪田社中」
- ・「民謡・今泉社中」
- ・「甲冑サークル・サクトリーダ加藤様」

方々のご協力をいただきました。

5. 顕彰会の活動状況 最終ページ

◆主な活動実績 まとめ

・講演会・・・

小山田信茂公と郡内小山田氏一族の事績顕彰し、広くその功績を後世に伝えてゆくこと

・学術研究・・・

江戸時代に出された「甲陽軍鑑」で、信茂公は武田家を滅亡に追い込んだ裏切り者とされたために小山田逆臣説の通説を覆すこと

・出版活動・・・

小山田信茂公と小山田氏一族の事績や古文書の発見などによる功績など後世に伝えてゆくこと

・慰霊祭・・・

「小山田信茂公・松姫様合同慰霊供養祭」として、当時の折々の戦いで落命された方々、小山田方、武田方・その他の相手方・戦乱に巻き込まれた数多くの方々の御霊に対しまして、共に慰霊し追悼させていただきます

5. ドラマ「勝頼と信茂」

信玄公生誕500年記念事業 ビデオ『信茂と勝頼』 最終章

長崎知事も絶賛

信玄公生誕500年記念事業実行委員会が歴史研究家と共に制作した歴史ドラマです

10分15秒



6. 郡民の誇り、そして未来への継承

1) 顕彰会の理念と活動 1/2

小山田信茂公顕彰会は、学術研究会として国立国会図書館から認定されており、営利活動を一切行わず、公益的な活動を目的としています。

会長として、私は、常に公益という視点に立ち、利益追求を慎み、会員の自由な活動と顕彰会活動の中核をなす二つの柱を掲げ活動しています。



信茂公出陣の図

藤原光綱

1) 顕彰会の理念と活動 2/2

第一の柱

信茂公の真実を明らかにする。信茂公の最後のご無念、すなわち勝頼公との離反、織田家との裏交渉、小山田家存続といった歴史的事実は、信茂公の真意とは異なる形で流布されています。この誤解を解き、信茂公の真意を明らかにすることが、顕彰会の活動の中心です。研修会や活動報告を通して、信茂公の功績と真実を明らかにしてきました。



笹子峠の山頂



日影の三寸道

第二の柱

地域おこしという点において、顕彰会では、最終目標として「武田信玄公像に匹敵するほどの銅像建立」を目指しています。これは、まだ具体的な行動には移していませんが、顕彰会役員会内で私が提唱し始めたものです。



信玄公銅像

2) 信茂公の功績と郡内への恩恵

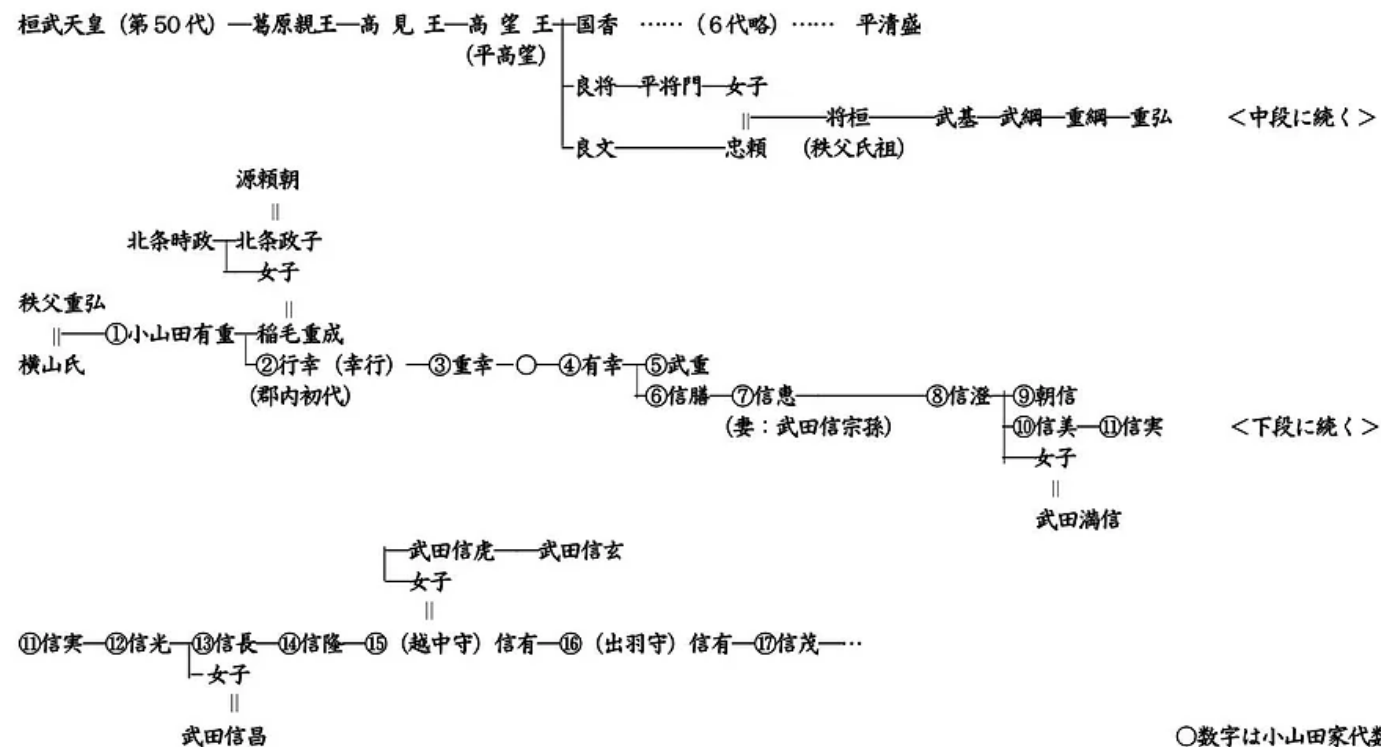
信茂公の功績と郡内への恩恵を皆様に理解していただくため、いくつかの質問をさせていただきます。

質問①: 郡内、大月、信茂公の領土であったとされる地域にお住まいの方、挙手をお願いします。

質問②: ご自身を〇〇家と意識し、現在何代目か考えたことがある方、挙手をお願いします。

質問③: 1582年(天正10年)3月時点まで遡り、ご先祖様を考えたことがある方、挙手をお願いします。

～郡内領主小山田氏略系図～



○数字は小山田家代数

これらの質問を通して、皆様はご自身のルーツ、そして信茂公との繋がりについて改めて考える機会を得られたと思います。

3) 信茂公の恩恵と郡民の誇り

恩恵

天正10年、織田徳川軍はもとより北条軍も郡内を攻撃しませんでした。
これは信茂公の功績によるものだとは確信しています。
信茂公はご自分の命を賭して織田信忠の出頭命令に従い、郡内を戦火から守ったのです。



矢崎ぶどう園様内の胴塚

誇り

郡内に住む私たちは、信茂公の命の代償によって
平和な生活を送ることができています。
そして、この事実こそが、私たち郡民の誇りであり、
未来へと繋ぐべき遺産です。



碑文には「戦国の信茂公が
後の規範で律せられるの
は嘆かわしい」という内容
が記されています

小山田信茂公の首塚 清掃活動

4) 未来への継承 1/3

甲府中心部に住む人々は、天正10年以後に甲斐国に入ってきた人々が大多数だと考えられます。

しかし、郡内に住む私たちは、遥か昔からこの地で命を紡いできたのです。

私たち郡民は、信茂公の功績を胸に、誇りを持って生きていくべきです。
そして、その誇りを未来の世代へと繋いでいくため、青少年育成に力を注ぎ、ふるさと教育を推進していく必要があります。

中央線鉄道唱歌二種からの学び

作詞者の心がいかに後世の方々の思いに齟齬を及ぼすか、同じ題の同じ作曲でも、歌詞が待ったく違います。

このことで、文章の力が、いかに恐ろしいことかと思いませんか。因って「ペン」は剣よりも強し」となると思います。

自らの考えの大本を、何に求めるか、判断をいかに持つか……。心して対応をしていくことが肝要かと言う事になると思います。自主自立・独立自尊の処世になると思います。

中央線鉄道唱歌 作詞：福山寿久 ・ 作曲：福井直秋
一番から七十番ある中の「大月の扱い」に注目して下さい。

「大月驛に下り立ちて 南へ馬車の便を借り 富士の高嶺
の雲分けて 千古の雪を踏みや見む
川を隔て、聳ゆるは岩殿山の古城 蹟主君に叛きし
奸黨の骨また朽ちて風寒し

中央線鉄道唱歌（明治44年）

作詞：大和田建樹（たけき）

作曲：多野 梅稚（おおの うめわか）

（明治33年の東海道線の鉄道唱歌と同じコンビ）

中央線鉄道唱歌作者：越嶽仙人 1911年

一番から二十八番までの中

「浅川行けば小佛ぞ 澤井澤をば早渡り 與瀬上野
原鳥澤や 谷間に架けしは猿橋か

「甲斐絹の産地で知られたる 郡内地方は此あたり 山の中
なる大月に 水力電氣の事業あり

3.「」は名に負う 笹子嶺「トンネル」一万五千 尺 徒歩にて
越しは十年前 居ながら通る 氣樂さよ

4) 未来への継承 3/3

岩殿山頂の乃木大将の碑



岩殿古墟に登る…乃木希典 作

欲問当年遺恨長
英雄前後幾興亡
巖巖千尺荒墟上
仗劍悵然見夕陽

当年問わんと欲す

遺恨はとこしえなるかと

英雄前後す幾興亡

ざんがん千尺荒墟の上(ほとり)
劍によりて悵然夕陽を見る

英雄前後幾興亡劍に依って超然夕陽を見る、の英雄を信茂公と理解している。

英雄の興亡: 多くの英雄が時代の流れの中で興り、そして滅びていく様子を表しています。

劍に依って: 劍を使って戦い、名を成した英雄たちのことを指しています。

超然: 物事に動じない、冷静であることを意味します。

夕陽を見る: 日が沈む様子を見て、過ぎ去った栄光や無常を感じることを表現しています。

5) 顕彰会の活動と未来への展望

小山田信茂公顕彰会は信茂公への恩返しと郡民の誇りを未来へ繋ぐ活動を行っていきます。



本会活動は、会員の会費のみで活動続ける決意です。皆様の温かいご支援とご入会を心よりお待ちしております。
此処に、時期が来たら＝市民の皆様、郡民の皆様からご理解ご支援をいただける時がきたら広く郡民を巻き込み、行政とも手を携えて銅像建立に立ち上がる 所存です。

今こそ
ALL 山梨！



6. 郡民の誇り、そして未来への継承

6) 結び

長時間にわたり、ご清聴いただきありがとうございました。

ご質問等ございましたら、お気軽にお声かけください。



岩殿山頂から見た富士山



浅川の指さし地蔵



浅川峠